

子供たち一人一人の居場所をつくる

学級経営 ハンドブック



令和7年3月
行田市教育委員会

このハンドブックについて

この「学級経営ハンドブック」は、若手の先生方や、学級経営に悩んでいる先生方に向けて作成をしたものです。学級経営は、学習や生活づくりの基盤として、教師と子供たちとの信頼関係や子供たち同士の人間関係を育てるために必要なものです。しかし、学級経営が上手くいかなかったり、問題が起きたりすることはよくあり、指導方法に悩んでいる先生もいらっしゃるかと思います。また、いじめや不登校といった生徒指導上の問題も、近年増加傾向となり、子供たちのよりよい人間関係の形成や学びに向かう集団づくりがさらに重要となっています。

このハンドブックは、そういった学校や子供たちを取り巻く現状を踏まえ、学級経営についての基本的な事項をまとめたものとなっています。学級担任の先生方はもちろん、管理職、養護教諭やそのほかの先生方を含めて、学級経営の充実に生かしていただきたいと思います。

目 次

1. 学級経営の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
学級づくりのポイント
居場所づくりの擬態的な方法
学級開き～出会いの演出～
 場面① 教室での待ち時間
 場面② 担任との出会い
 場面③ 子供たち同士の出会い
目標づくり
 学級目標の設定 個人目標づくり
組織づくり
2. 特別活動の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
学級会で1年間のストーリーを描く
学校行事を題材とした学級活動
3. プロアクティブ生徒指導の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
自己指導能力の育成
規範意識の育成
「厳しく」「温かい」指導



Ⅰ. 学級経営の充実



学級経営を通して、どのような学級をつくっていけばよいのでしょうか？

学級に所属している子供たち同士が関わり合い、子供たち一人一人に「居場所」がある学級づくりを目指しましょう！

学級づくりのポイント

望ましい学級をつくるために、「4つの感」を大切にしましょう！

- ①所属感…子供たち相互のつながりがあり、一人一人が学級の一員という認識をもっている。
- ②安心感…他の人が自分のことを理解し、認めてくれるという支持的風土が醸成されている。
- ③達成感…学級の中で自分のよさや力を発揮することができ、他の人と協力しながら課題を解決したり、成功体験を味わったりしている。
- ④充実感…自信をもって次の課題に挑戦しようとする意欲をもっている。

居場所づくりの具体的な方法



	具体的な方法
「居場所」づくり	・学級の中で守るべきルールを全員が納得のもとで作成し、共有されている。 ・教師が必要に応じて指導や声掛けをすることで、いじめや暴力といった他者を傷つける行為を許さない雰囲気づくりを行う。 ・課題を抱えている児童生徒に寄り添い、課題解決に向けた方策を共に考える。 ・一人一人の意見を価値付けし、間違えたり、失敗したりしても笑わない雰囲気をつくる。 ・発達の段階を考慮しながら、児童生徒が自己開示できる場を設定する。（構成的グループエンカウンター）

※学級活動（Ⅰ）や学校行事等の活動を通して、子供たち一人一人が活躍したり、学級の仲間と協力したりする場を設定することで、児童生徒の自己有用感を高めることも効果的です！



学級づくりのスタートは、どのようなことをすればよいのでしょうか？

学級づくりはスタートが肝心です！学級開きからの約3日間を通して、出会いの演出、目標づくり、組織づくりに取り組みましょう。

学級開き～出会いの演出～

クラス替えや担任発表など、始業式の子供たちは期待と不安が入り混じった心情となります。不安を取り除き、「これからの1年間が楽しみ！」「1年間頑張りたい！」といった思いを子供たちが抱けるように、出会いを演出しましょう。

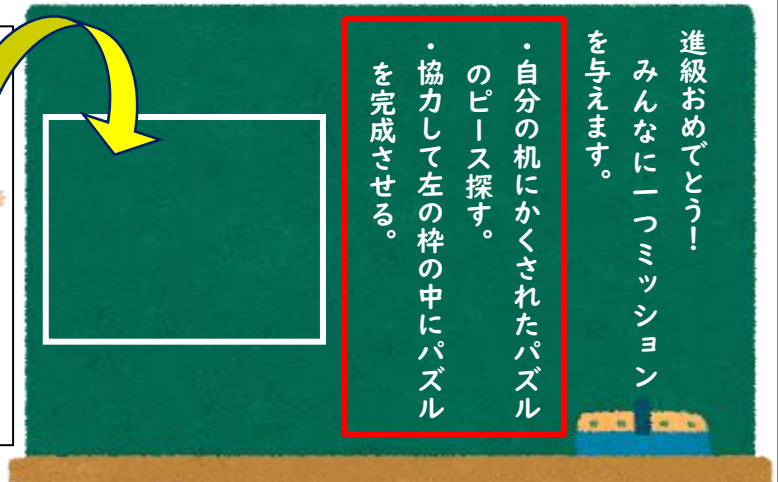
場面① 教室での待ち時間

楽しい1年間になるといいな



学級開き実践例①【メッセージパズル】

- ①担任のメッセージを入れて拡大印刷をし、学級の人数分に切り分ける。
- ②切り分けたピースを子供たちの席に置いておく。
- ③黒板に枠を作っておき、子供たちは自分の席に置いてあるピースを組み合わせて、メッセージを完成させる。



学級開き実践例②【あいうえお作文】

- ①担任の自己紹介として、自分の氏名を使って「あいうえお作文」を黒板に書いておく。
- ②あいうえお作文には、自分の好きなことや苦手なことを入れられるようにし、自己開示をすることで、子供たちとの人間関係づくりにつなげる。

場面② 担任との出会い



担任としての希望を語る！

- ①「このようなクラスにしたい！」「一人一人がこのように成長していったほしい！」という担任としての希望や、子供たちへの期待について語る。
- ②「このようなことは許さない」といった学級のルールについて、子供たちと共通理解を図る。

気を付けるポイント

- ・笑顔を忘れず、明るい雰囲気を中心掛ける。
- ・話す内容は、事前に準備しておく。
- ・複数学級ある場合には、学級のルールを他の担任とも確認をしておく。
(学年のルールとするのもよい)
- ・教師の熱意や本気度を示し、子供たちを本気にさせる。
- ・子供たちは教師の一挙手一投足をよく見ているので、服装や髪形、言動には気を付ける。



場面③ 子供たち同士の出会い



子供たち同士の関わり合いをつくるために、短い時間でできる簡単なゲームを行うのもよいでしょう。アイスブレイクを通して、明るい雰囲気で初日が終わられるようにしましょう。

アイスブレイク① 「仲間探しゲーム」

- ①「旅行に行くなら海？山？」といった簡単な質問をいくつか書いたワークシートを配布し、回答を記入させる。
- ②子供たち同士でインタビューを行い、自分と回答がすべて同じ人を見つける。

アイスブレイク② 「バースデーリング」

- ①子供たちが喋らずにジェスチャー等を使いながら誕生日を伝え合い、誕生日順で円を作る。
- ②誕生日を確認した際に間違っていたとしても、活動の様子を称賛し、明るい雰囲気となるように声掛けをする。

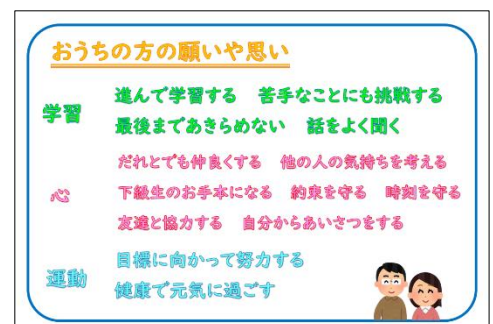
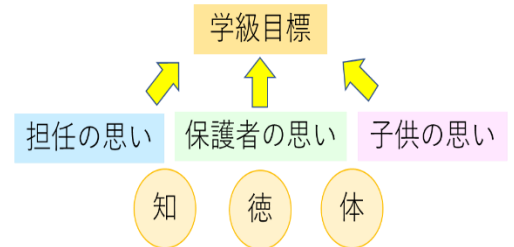
目標づくり

学級目標の設定

学級目標は、学校教育目標や学年目標を受け、子供たちや保護者の願いや思い、担任の方針等を踏まえて、教師が中心となって設定していきます。目指す一人一人の姿として設定するものですので、「〇〇な子」「〇〇な生徒」と表現します。

【学級目標設定の流れ(例)】

- ①保護者アンケートを実施し、保護者の願いや思いを集約する。
- ②子供たちとともに理想の学級に対する願いや思いを話し合う。
- ③担任、保護者、子供の願いや思いを共有し、教師が中心となって学級目標を設定する。



※学級目標の達成に向けた意欲を高めるために、「学級の合言葉」を学級活動(1)で話し合う実践もあります。

【例】一人一人のよさを生かす→カラフルクラス

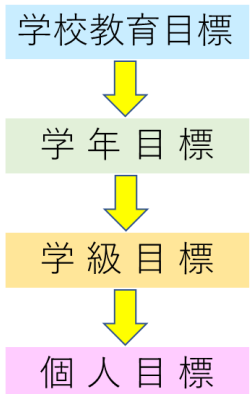
↑教室に掲示するのも効果的です。

個人目標づくり

学級目標の内容を受けて、子供たち一人一人が個人目標をつくれます。個人目標は、定期的に振り返る機会を設定し、目標に向けた取組状況などを確認できるようにしましょう。早い段階で目標が達成できたり、目標が高すぎて達成が難しかったりする場合は、個人目標を再設定することも考えられます。

【個人目標づくりの流れ(例)】

- ①学級目標の内容を子供たちと確認する。
- ②1学期に予定している学習や運動、学校行事などを子供たちに伝え、見通しをもたせる。
- ③なりたい自分に向けて努力することを具体的に考える。
(「いつ」「どのくらい」取り組むのか。)



いつ?
どのくらい?

※具体的な目標となるように助言をする。

【例】苦手な数学を克服する → 授業前日に教科書を読み、30分以上予習をする。

組織づくり

学級での生活を楽しく豊かにしたり、円滑に運営したりしていくために、**係**や**当番**をつくりましょう。その際、係活動と当番活動の違いについて、子供たちと共通理解をしておくことが大切です。

係活動

学級生活を楽しく豊かにするために子供たちが仕事を見出し、**創意工夫**して自主的、実践的に取り組む活動

【係の種類(例)】

・新聞係 ・マンガ係 ・レク係 ・お笑い係 ・飾り係 ・お祝い係 など

子供たちが話し合っ
て係を考え、全員が
いずれかの係に所属
するようにします。小
学校低学年では、活
動内容が当番活動に
近くなることも考え
られます。経験を積
んだ上で、係活動と
当番活動の違いを指
導していきましょう。



当番活動

学級生活が円滑に運営されていくために、学級の仕事を**全員で分担**し、担当する活動

【当番の種類(例)】

・日直 ・給食当番 ・掃除当番 など

日常生活でなくてはならない活動が、当番活動です。活動を通して集団の一員としての自覚や責任感を育てていきます。誰もが平等にいろいろな仕事を体験できるように、輪番制にして週交代にするなどの工夫をすることが大切です。



※提出物や忘れ物のチェックといった、子供が子供を管理するような係や当番は作りません！（子供同士に上下関係ができてしまうため）

【係活動コーナーの充実】

係からのお知らせコーナーや、活動のアイデアを募集する用紙などを掲示しておく、係活動が活発になります。画用紙やペンなど、子供たちが使える道具を置いておくのもよいでしょう。



2. 特別活動の役割



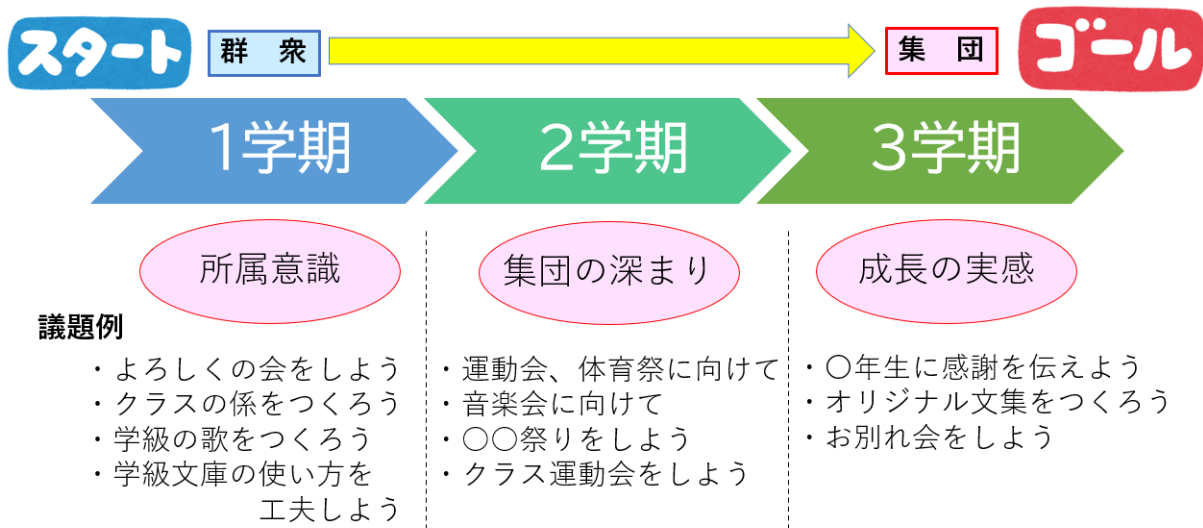
学級経営と特別活動には、どのような関係がありますか？

学級経営の中核に学級活動(1)【学級会】を据えると、子供たちのよりよい人間関係づくりや自発的な態度の育成につながります！

『小学校学習指導要領解説(平成29年告示) 特別活動編』や『中学校学習指導要領解説(平成29年告示) 特別活動編』には、以下のように示されています。学級経営は、特別活動(特に学級活動)を要として行っていくことが大切です。

学級がよりよい生活集団や学習集団へと向上するためには、教師の意図的、計画的な指導とともに、児童(生徒)の主体的な取組が不可欠である。学級経営は、特別活動を要として計画され、特別活動の目標に示された資質・能力を育成することにより、さらなる深化が図られることとなる。

学級会で1年間のストーリーを描く



【1学期】みんなで活動する楽しさを実感する

進級の喜びや新しい友達との出会いを大切に活動を行います。
小学校低学年では、司会などの役割を教師が行うことも考えられます。

【2学期】クラスへの所属感や愛着を高める

学校行事に向けて話し合ったり、学級オリジナルの集会などを行ったりと、学級文化の創造につながる活動を行います。

【3学期】成長を実感し、来年度につなげる

自分たちの活動や思い出を振り返り、子供たち一人一人が成長を実感できるような活動を行います。



学校行事を学級経営に生かす際の留意点がありますか？

学校行事の意義や、学校行事を通して身に付けさせたい力を、子供たちと共有したり、成長を価値づけたりすることが大切です！

学校行事を題材とした学級活動

学級活動(3)で学校行事の意義を確認するとともに、学校行事を通して「なりたい自分」について理解を深め、個人の目標を意思決定しましょう。



学級活動(3)「運動会・体育祭に向けて」展開例

つかむ

どうして運動会や体育祭をやるのかを確認する。
・仲間と協力する ・成長した姿を見せる など

さぐる

運動会を通して、どのように成長したいのかを話し合う。
・仲間を励ます ・係に責任をもって取り組む など

見つける

成長するために、どのようなことをすればよいかを話し合う。
・練習のときに自分から声を掛ける ・率先して動く など

きめる

運動会の練習と本番に向けて、自分が努力することを決める。

当日の活動が終了したら、準備～当日までの活動について振り返り、成長を価値づけたり、新たな課題を共有したりしましょう。その際、個人だけでなく、相互での振り返りも取り入れることで、様々な視点で振り返りを行うことができます。

気を付けるポイント

「目的」と「目標」の違い

「目的」と「目標」は違います。「優勝する」というのはあくまでも目標であり、目的は「運動会を通して、みんなで声を掛け合って団結力を高める」や「記録に向かって全員で粘り強く取り組めるようにする」といったものになります。これを間違ってしまうと、勝敗にのみ教師や子供たちの目が向き、本来大切にシなくてはならない目的を見失ってしまいます。あくまでも勝敗は結果であって、本番までの練習や成長の過程を大切にしていきましょう。

3. プロアクティブ生徒指導の推進



いじめ、不登校などの問題行動を未然に防ぐための取組にはどのようなものがありますか？

問題行動等の未然防止に向けた予防的な指導（プロアクティブ生徒指導）を充実させ、子供たちの自己指導能力の育成を促しましょう！

主体的に問題を発見し、自己の目標を設定して、自らの行動を決断し、実行する力

プロアクティブ生徒指導

問題行動等の未然防止に向けた予防的な指導や相談、児童生徒の成長を促す生徒指導

リアクティブ生徒指導

問題行動等への対応や事後指導、相談といった問題行動等が起こったときに行う生徒指導

道徳や学級活動(2)の学習の中で、言葉遣いやいじめなどについて扱い、子供たち一人一人に「**いじめは許さない！**」という認識をもたせましょう。また、協働する場面や、子供たち一人一人のよさを発揮する場面を意図的に設定することで、多様な他者と協働することの楽しさを感じたり、自己有用感を高めたりすることができるようにならせます。

【取組例】

子供たちといじめについて考えた後、「いじめ0宣言！」に署名をしました。教室に掲示し、1年間意識できるようにしました。



5年1組 いじめ0宣言！	
ほくたち・わたしたちは	いじめを絶対に許しません！
小学校 5年1組	
担任	

↑「いじめ0宣言」の掲示

クラスごとにいじめについて考え、標語を作りました。作った標語は全校集会で発表しました。



↑「いじめ0集会」の取組

気を付けるポイント

あいさつや発表の回数を学級ごとに競ったり、自主学習ノート等の取組状況（何冊終わったか など）を掲示したりすることは、同調圧力を高めたり、上下関係を生んだりすることもあるので、注意しましょう

子供たち一人一人の規範意識の育成を図るとともに、「褒め方」と「叱り方」のポイントを意識して、子供たちとよい人間関係を築きましょう！

規範意識の育成

私たちが生きる社会は多くのルールが存在しています。子供たちが社会に出たときに、ルールを守った生活ができるように、小さな社会である学校という集団生活の場において、規範意識の育成を図りましょう。



規範意識を育成するためのポイント

- ①ルールやきまりは、「どうしてあるのか」「どうして守らなくてはならないのか」ということを子供たちに理解させる。
- ②年度当初に学校や学級のルールを子供たちと確認し、これらのルールに基づいた一貫した指導を心掛ける。
- ③学級の問題を解決する方法について、教師の適切な指導の下、子供たち自身で話し合う場を設定し、考えた方法を実践できるようにする。
- ④問題解決に向けて実践した過程や、実践を通して改善した点について教師が見届け、称賛する。
- ⑤ルールを守らない場合、安易に罰を与えるのではなく、「どのようにすればよいのか」を子供に考えさせ、努力目標を設定する。
- ⑥保護者にも情報を発信し、連絡を密にする。

「厳しく」「温かい」指導

学級経営の充実を図るためには、子供たちとの信頼関係を築くことが大切です。そのためにも、子供たちのよかった点はしっかりと褒め、改善すべき点は毅然とした態度で叱ることが必要となります。また、教師の言葉遣いや声の大きさ、表情によって子供たちに与える印象は変わりますので、場面に応じた指導についても工夫をしましょう。

【褒め方のポイント】

- ・何がよかったのかを具体的に褒める。
- ・結果だけでなく、その過程についても褒める。

【叱り方のポイント】

- ・感情的にならず、人格や人間性を否定しない。
- ・指導の内容や方向性が変わらないように、一貫性をもつ。
- ・失敗だけを叱るのではなく、成長につなげるという視点で叱る。



参 考 資 料 等

- ・「特別活動 指導資料」（国立教育政策研究所）



- ・「小学校特別活動映像資料 学級活動編」（国立教育政策研究所）



- ・「小学校特別活動映像資料 児童会活動・クラブ活動編」
（国立教育政策研究所）



- ・「生徒指導提要」（文部科学省）



- ・「生徒指導リーフ」（国立教育政策研究所）



- ・「一人一人の社会的自立に向けた児童生徒支援ガイドブック」
（埼玉県教育員会）



- ・「子供たち一人一人の学ぶ力を育てる うきしろスタンダード」
（行田市教育委員会）



子供たち一人一人の居場所をつくる



令和7年3月

行田市教育委員会 学校教育部 教育指導課